

彦根・犬上・愛荘 上映会

5月28日(土)
彦根勤労福祉会館
(大ホール)

- ① 午後1時30分～3時40分
- ② 午後4時00分～6時10分
- ③ 午後6時30分～8時40分



5月29日(日)
ハーティーセンター秦荘
(中ホール)

- ① 午前9時30分～11時40分
- ② 午後0時～2時10分
- ③ 午後2時30分～4時40分



主催：映画「わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯」を観る彦根・犬上・愛荘の会
連絡先：鈴木勉市 090-3278-8445 吉原英樹 090-5889-2371

※上映協力券(黄色)をお持ちでない方は、資料代(500円)にご協力ください。

東京での試写会に参加された安齋友美さんに感想を寄せていただきました。

あの時代を経験したくない」

これが一番感じた率直な感想です。

労働運動、教育を受うる権利、そして女性も男性も自分の進みたい道を自分で選んで良い。

今と同じようなことを主張していた千代子さんたち。でも、当時と現在とで違うところは、この主張すら簡単に出来なかったということ。それを改めて感じさせる映画でした。

そして、声をあげることすら難しかった時代にも関わらず、千代子さんたちが 市民の音が社会を変える【社会を変えれば、明るい未来がある】ことに希望を持って生きている姿に力強さを感じました。

正直、特高警察に逮捕され、拷問を受けるシーンは苦しくてしんどかったです。本当は映画では表せられないほど酷いことが起きていたのだけ(政権側としては、それほど強い圧力を加えなければ、自分達が進めようとしている「正義のための戦争」強い国をつくる)ということが出来なくなることを恐れていたということもよく分かりました。

今、ロシア国内で起きているメディア規制や反戦デモの参加者を逮捕するという行為は、まさにその表れだと思えます。戦争が始まれば、武力を行使しようとするれば、政権と違う事を主張する人を増やしたくないとなるのは当たり前のことなのでしょう。

だからこそ、政権に逆らう者は、天皇の名において命を奪っても問題ない【このことが当たり前だったあの時代に戻さないよう、戦争放棄の条を変えさせない】核兵器は廃絶を【と声を上げ続けなくてはいけないし、戦争への動きを食い止めないといけない】と思います。

2022年4月4日

新婦人県本部事務局長 安齋友美